



長谷川桜菜（綾部小6年）

— 最優秀作品 —

武力よりも対話を

原田萌音（豊里中1年）

長崎の原爆資料館に行き、原爆の恐ろしさを知り、戦争について深く考えるきっかけになった。私たちは、原爆の恐ろしさを絶対に忘れずに、悲惨さをこれからも訴えていかなければならない。「武力よりも対話を」。そんな世界を、私は切に願う。（要約）

※全文は市ホームページ（記事ID 4159）に掲載しています

世界連邦推進綾部市小・中学生 ポスター・作文コンクール

地球市民の集い実行委員会（委員長、山崎善也・綾部市長）が平和と環境をテーマに行っている、コンクールの受賞作品が決まりました。本年度の応募はポスター322点、作文39点。入賞者は次の皆さんです（敬称略、順不同）。

ポスターの部

優秀／渡邊結衣（東綾中2年）▽原田莉奈（豊里中1年）▽大槻菜穂（中筋小5年）▽深田三耀（同）
佳作／磯井優希（八田中2年）▽藪見珂音（豊里小5年）

作文の部

優秀／浅田鈴（豊里中1年）▽仲江春馬（同）▽原田莉奈（同）
佳作／稲葉枇杷子（上林中2年）▽和泉桜空（豊里中1年）▽中川誠士郎（同）▽丸岡晃太郎（同）▽村澤音々花（西八田小6年）

令和5年度 あやべゼロカーボン表彰

市は昨年度から、ゼロカーボンシティの実現に貢献する優れた取り組みを表彰。令和5年度の受賞者は次の皆さんです。応募内容は、ホームページでご確認ください。（記事ID 4073）

受賞者の声

【個人の部・最優秀賞】

谷山光さん（位田町）

今回受賞した活動は、府地球温暖化防止活動推進員として10年以上活動する中で学んだものです。

【団体の部・最優秀賞】

オムロン綾部事業所（中山町）

ものづくりだけでなくエネルギーや資源を含めた生産性の向上に取り組んできました。2030年までにエネルギー生産性の倍増に挑戦します。今後も地域の皆さんや関連企業と連携しゼロカーボンを目指します。

【団体の部・優秀賞】

綾部地区自治会連合会

令和2年に、家庭ごみを20年後に半分にするを目標に掲げました。雑紙を減らすことを目的に、資源回収を頻繁に実施。今後も、各自治会と連携して家庭ごみの減量化を促進します。



10月14日にあやべ・日東精工アリーナで表彰式を開催

あやべバス絵画展

市は、「第13回あやべバス絵画展」を開催しました。応募は計233点（園児85点、1年生50点、2年生54点、3年生34点）。入賞者は次の皆さんです（敬称略）。入賞作品は「移動絵画展」として、11月末まであやべバスの車内で展示。最優秀賞の4作品は、バスマスクとして車両前面に掲示しています。

園児の部・5歳児

優秀賞／田村紗月（綾部ひまわり共同保育園）
桃太郎賞／伊藤真大（同）
佳作／小林依菜（豊里幼児園）

小学生の部・2年生

優秀賞／山崎桜佳（豊里小）
桃太郎賞／片山琥太郎（東八田小）
佳作／伊藤旭（綾部小）

小学生の部・1年生

優秀賞／四方優希（物部小）
桃太郎賞／梅垣来歩（豊里小）
佳作／瀧花梨乃（東八田小）

小学生の部・3年生

優秀賞／出野紗那（中筋小）
桃太郎賞／荻野杏奈（同）
佳作／真岡歩果（同）

— 最優秀作品 —



（上から）篠崎彩純（豊里幼児園）、藤澤陽向（豊里小1年）、山本里菜（同2年）、四方杜和（吉美小3年）



微力なれど無力でなし

「世界の火薬庫」と言われる中東の地に、再び戦火が燃え広がっている。何千年も続くこの土地の奪い合いは、引き続き答えの見出せない消耗戦に陥り、憎しみの連鎖だけが昂じる。歴史的な民族の対立と相容れない宗教の教義、さらに石油を巡る利権と一時の宗主国イギリスの身勝手な裁定。何とか「オスロ合意」で和平への道が開かれたのも東の間、その約束はいつも簡単に反故にされる。そして機能不全の国際機関。

世界連邦を謳う本市はイスラエル・パレスチナの紛争による双方の遺児らに招く事業を20年にわたって継続してきた。2003年に綾部市主導で始まったこのプロジェクトは、現地の情勢やコロナ禍などで見合わせたこともあるが、この春も亀岡市の協力のもと実施す

ることができた。参加者は1万キロ離れた極東で平和を謳歌する日本の地方都市に来て顔を合わせ、互いの苦悩を吐露する。最初は戸惑いもあったが交流の深まりとともに、敵とみなしていた相手の心情も悟り、和平の価値を共有し帰国していったばかりだ。

本市の住民にも過去、ホストファミリーとして両国の若者と意義ある時を過ごし、別れの日には互いが涙、涙でハグする光景を目の当たりにした経験をもつ人が少なからずいる。今回の衝突では連日の悲惨な光景を伝える報道に言葉が失い、さぞや心を痛めておられると推察する。同時に、結果としての無力感に苛まれているかもしれない。私自身もその一人である。

平和と安寧に感謝しつつも、享受するだけでなく何かできないのか、という焦燥と苛立ちにも似た慙愧の念は拭い難い。微力でも無力ではない」と鼓舞した言葉も今は虚しく響く。それでも、たとえそうであっても、「今日の夢を明日の現実」にすべく、「大河の一滴」になり得る術を、地球市民たる一人一人が愚直に求めていくしかあるまい。

山崎善也（綾部市長）

楽しみながら平和や環境を考える日に

地球市民の集い（同実行委員会主催、綾部商工会議所青年部共催）が10月14日、西町三丁目のあやべ・日東精エアリーナ（市民センター）で開催。約700人が参加し、職業体験「あやザニア」や市民憲章をモチーフにしたリアル版すごろくゲーム、環境に関する講演や体験会など多彩な催しを楽しみました。物部小学校6年生の岩田大和君は「参加は2回目。市民憲章のすごろくゲームが楽しかった。ごみのポイ捨てなど正しくない行動をしないよう、友だちにも呼び掛けたい」と環境への意識を高めていました。



秋晴れのもと、古墳まつりにぎわう

「第30回私市円山古墳まつり」（私市円山古墳を守る会主催）が11月3日、私市町の私市円山古墳公園で盛大に開催。地元自治会による模擬店、新鮮な野菜の販売などのほか、歌や太鼓、バンド演奏などのステージがあり、秋晴れの空の下、約2,800人の来場者にぎわいました。



猛暑乗り越え大輪並ぶ

第30回市菊花展（市シルバー人材センター、市菊花会共催）が11月2～4日、あやべ・日東精エアリーナ（市民センター、西町三丁目）で、市総合文化祭作品展と同時に開催されました。同会の内藤正雄会長は「今年は猛暑で育てるのが大変だったと思うが、手入れが行き届いた花ばかり」と講評。22人と2団体が丹精を込めて育てた色とりどりの菊が会場を彩り、訪れた人は写真を撮るなどして、大輪の菊を楽しみました。

雨の中多くの家族連れでにぎわう

「海の京都」綾部地区協議会（高橋辰夫座長）は10月21日、青野町のあやべグンゼスクエアで綾のまちめぐりフェスを開催しました。あやべ地域交流大使のシャムパーハットでつじさんによるシルクスクリーンワークショップやおつかいウォークラリー、クイズなど多彩なイベントで大盛況。謎解きゲームに参加した綾部小学校2年生の福山陽莉さんは「難しい問題もあったけど楽しかった」と笑顔でした。



バルーン作りで自己表現力を育む

八田中学校で10月17日、鳥取県立博物館の美術振興課専門員、佐藤真菜さんと山本亮さんを講師に、豊かな自己表現力を育むワークショップが開催されました。同校生徒や八田幼稚園の園児、日本語学校で学ぶ生徒など約90人が、ビニールのシートにカラフルなテープを思い思いに装飾し、大きなバルーンを作り上げる創作活動に取り組みました。



田中健斗さん（同校3年）は「飾り付けに一人ひとりの個性がよく出ていて面白かった」と笑顔。澤田響さん（同）は「自分だと思いつかない表現があった」と刺激を受けた様子でした。

作品や体験で芸術の秋を楽しむ

「第71回綾部市総合文化祭」（綾部市文化協会主催）の作品展が11月2～4日、あやべ・日東精エアリーナ（市民センター、西町三丁目）で開催されました。会場には、書や絵画、写真、生け花など約1,203点が展示され、来場者は一つひとつの作品に見入っていました。

また、期間中開催された「一日文化体験教室」も盛況。組み紐作りを体験した今井五月さんは「以前から一度やってみたいと思っていた。糸を編んでいくのが面白かった」と話しました。





私たちの心ふるさと、あやべ水源の里。その活動を順に紹介しながら集落の元気のヒミツや日々を楽しく暮らすコツを探ります。

水源の里・光野

見つけてもらえた光野の良さ



交流会ではたたき手を招くなど、積極的に太鼓を活用

打面の直径約1.5mの「於見の太鼓」は、光野のシンボリック的存在です。近年たたき手がいなかった伝統の太鼓を復活させ次世代に継承しようと、光野は平成25年に水源



芋煮会に参加した多くの関係者と記念撮影する代表の澁谷さん(前列右端)

の里に加盟。マスコットキャラクター「ヒカルくん」や観光マップの作成▽トレッキングコースの整備▽SNSでの活動報告ーなど、着実に活動を続けてきました。平成26年には樹高33m、府内で2番目の大きさを誇る大カツラの下に、絶滅寸前種で府指定希少野生生物「ヒメザゼンソウ」を発見。学術調査や観光などに多くの人が訪れるようになりました。光野の代表、澁谷満男さんは「光野を訪れた人がカツラや希少植物をはじめ地元の魅力を発見してくれた。これまで頑張ってきた活動も認知されるようになり、感謝している。今後もさらに多くの人に関わっていただき、光野を盛り上げていきたい」と話します。

シリーズ 人権を考える ⑱ 人権週間

12月4～10日は人権週間

12月10日は、世界各国で「人権」について考える「人権デー」です。1948(昭和23)年12月10日、国連総会で採択された「世界人権宣言」を記念し、1950(昭和25)年に制定されました。日本では世界人権宣言採択の翌年の1949(昭和24)年に、12月4～10日の一週間を「人権週間」と定めて以降、毎年全国各地で啓発活動が展開されています。

一人ひとりの違いを認めよう

「人権」とは、一人ひとりが生まれた時から持っている「自分らしく生きる」権利のこと。みんながみんな違うように、同じ人は誰もいません。一人ひとりの違いを認めたり、自分や相手の良いところを見つけたりして、それぞれが大切な存在であることを再確認する一週間にしましょう。



このコーナーでは、シリーズで人権に関する情報をお知らせします。

何事も初めから決めつけない

日々の生活で、無意識のうちに「偏見」で物事を見ていませんか。人は何かを判断するとき過去の経験などから自分のものさし(判断基準)を使いますが、その基準が間違っていることもあります。「男のくせに…」「血液型は○○型だから…」などの考え方も思い込みや偏見につながります。初めから何かを決めつけるのではなく、一人ひとりが持つ「個性」を「その人自身」を見つけて、認めることが大切です。

環境コラム

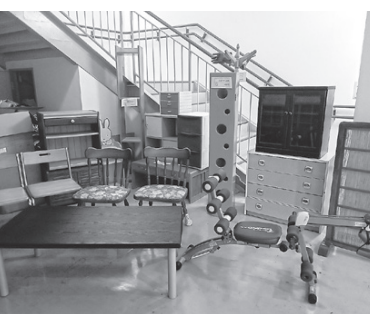
考えよう。私たちにできること

「使い捨てる時代」から、ごみを減らしてリサイクルを推進する「持続可能な循環型社会」の実現に向けて、できることから始めてみませんか。

さらなる3Rの推進で「ごみ削減」

3Rとは、捨てるごみを減らすための手段のこと。一人ひとりができるごみ減量化の取り組みを紹介いたします。

- ・リデュース(発生抑制)
- ・不要なものは持たない、買わない、もらわない
- ・過剰包装や不要な包装は断る



- ・マイバッグ、マイボトルの持参
- ・詰め替え商品の購入
- ・リユース(再使用)
- ・誰かに古着などを譲る
- ・リユースショップやフリーマーケットの利用
- ・修理するなどして繰り返し使う
- ・リサイクル(再生利用)
- ・ごみの分別を徹底し、紙類などは資源として出す
- ・新聞、雑誌、ダンボール等は、地域やPTAなどが実施する資源回収に出す

リユース品を展示・販売

市クリーンセンターでは、椅子、テーブル等の家具類を展示・販売しています。写真上。同センターにお越しの際には、ぜひご覧になり、購入をご検討ください。その場でお渡しします。電話、メール等での予約や購入後の返品・交換はできません。詳しくは同センター(環境保全課) ☎(42)1489へ。



今月の手話

スポーツ



両手を開いて交互に振る(走る様子)

2025年11月15～26日
東京デフリンピックが
開催されます
(ろう者のオリンピック)
協力：京都府聴覚障害者協会後援支部

図書館ほんでほんで通信mini

大注目の作家・小説家が読み解く、破天荒な江戸文芸の世界！新感覚文芸エッセイ12本に加え、芥川賞候補にもなった著者による3本のリメイク短編小説を収録しています。



おすすめポイント

古典や近世文芸に興味がある人におすすめ。まずはこの本で近世文芸に触れてみませんか？

江戸POP道中文字栗毛

著者=児玉雨子
出版社=集英社